絵本の学びに対する学生の意識
―『絵本探究』の授業実践を基に―

峰　本　義　明

Student's awareness of studying picture books
—Based on the practice of the lesson of “Exploring picture books” —

Yoshiaki Minemoto

１．はじめに

保育の現場において「絵本」は重要な児童文化財である。絵本を読み聞かせることで子どもたちの言葉の成長を促すことができ、子どもたちの想像の世界を広げることができる。よって子どもたちが絵本に触れる機会を多く持たせることは保育の現場において必要なことである。そのために、保育士を目指す学生は絵本についての知識を多く蓄えることが大切である。

しかし、学生たちの絵本に対する知識は不足していると言える。筆者が担当する授業では、学生たちに絵本の読み聞かせの実践を行わせている。その際の学生たちの選書は、確かに多様な絵本を選んで来るが、日本人作家による最近の出版年のもので、学生たちの身近にある絵本に偏っていることが分かる。また、絵本の読み聞かせ実践での学生のふりかえりを見ると、「様々な絵本があることを知った」「自分もこうした絵本を読みたいと思った」という感想が多く、授業以前にはこれらの絵本の存在を知らなかったことが分かる。授業で強制的に扱わない限り、学生は多くの絵本に自ら触れようとはせず、結果として絵本に対する知識が不足していると言える。

このことに関して、杉本真理子（2016）は次のように述べる。

> 保育養成課程の授業の中で、学生は現場ですぐに役立つHow-toを手っ取り早く身に付けることに目を向けがちである。しかし、保育者に必要不可欠な子ども理解・保育に対する姿勢・保育内容の研究などこそ、学生時代にじっくりと時間をかけて醸成しておきたいと考える。[1)]

杉本の言う「How-toを手っ取り早く身につける」ことは短期大学で学ぶ本学の学生にも見られる傾向である。しかし、杉本が指摘するように、絵本についての知識を蓄え、様々な絵本やその背景について知ることはまさに「学生時代にじっくりと時間をかけて醸成しておきたい」ことである。

このためには、１学年の段階で学生たちに絵本に多く触れる経験をさせるべきである。また、学生時代であるからこそ、すでに評価の定まった「古典」ともいえる絵本に触れさせるのが望ましい。そして、

その定評ある絵本を単に読むだけでなく、その絵本の作者について、また絵本が成立した背景についてなども学ばせることで、学生に絵本への興味・関心をさらに持たせることが期待できる。

杉本は「絵本の探求」という授業実践[2)]を通して、こうした問題に対処しようとしている。

> 本実践では養成課程の「絵本」に関する授業の中で行われがちな“いかに巧みに読み聞かせを行うか”、“対象年齢や季節に合わせて絵本を選ぶ”といった視点には焦点をあてていない。まず重要なのは、学生が“絵本の魅力を深く実感する”こと、今後も“絵本を探求し続けるきっかけを得る”ことであり、それが出来ていれば、読み聞かせの技術や絵本の選書力は、自ずからついてくると考えるからである。（下線は原文のまま）[3)]

この中で注目すべきは、学生が「絵本の魅力を深く実感する」ことや「絵本を探求し続けるきっかけを得る」ことによって、読み聞かせの技術や絵本の選書力の向上につながる可能性について言及している点である。このことは、学生が主体的に学んでいく上で重要なことであり、授業時間以外でも自ら積極的に絵本を読み進め、知識を獲得していくのに必要なことである。

吉田新一郎（2006）は、現代の学習社会において必要とされる教え方・学び方の特徴として次のように述べる。

> 「学び」は楽しく、エキサイティングなものであるという捉え方、多様な学習方法、相互に信頼関係を築きながら真の協力を実現していく、外から提供されるのではなく、内発的なモチベーション（とはいえ、そう仕向けることができるのは教師のうまい投げかけ方ですが）、自分がかかわっている組織や社会と統合された形で行われる「学び」などで表されるものです。[4)]

これからの「学び」は「楽しいもの」「エキサイティングなもの」である。それは、「絵本の探求」の授業において実現可能なことである。絵本の持つ豊かな世界に触れることによって、学生は楽しさやエキサイティングな感覚を得ることができる。また絵本は、それを学ぶことについて「内発的なモチベーション」を自然な形で学生たちに与える。さらに、これをグループで行うことによって、「自分がかかわっている組織」と統合した形で学ぶことができる。「絵本の探求」の授業は、杉本が期待するように、「読み聞かせの技術や絵本の選書力」の向上につながると考えられる。

2．研究の目的

筆者は杉本の先行実践を参考にした「絵本探究」の授業を実践した。本研究は、この「絵本探究」の授業を通して、学生が絵本の学びについてどのような意識を持ったかを探る。そして、その結果を踏まえて、「絵本探究」の授業の意義を確認し、今後の改善に向けての視点を得ることを目的とする。

なお、杉本は「絵本の探求」という用語を用いているが、本実践では、学生たちが深い学びに到達することを狙って、「絵本探究」の語を用いる。

3．研究の方法

3. 1. 対　象

対象は本学幼児教育学科の１年生129名である。授業科目は言葉指導法Ⅰである。この授業は３クラスに分かれて展開されており、各クラスの人数は以下の通りである。

Ａクラス：42名（男子１名、女子41名）
Ｂクラス：43名（男子１名、女子42名）
Ｃクラス：44名（女子44名）

3. 2. 実施時期

実施時期は2016年12月の４回の授業である。なお、本実践における１回の授業は90分である。

3. 3. 先行実践からの変更点

本実践は杉本の実践を踏襲しつつ、さらに本学の事情に合わせた工夫を施した（表１参照）。

表1　杉本実践と本実践との相違点

項目	杉本実践	本実践
対象	95 名（3 クラスに分ける）	129 名（3 クラスに分ける）
授業回数・内容	6 回・毎回の授業では他の内容も扱う	4 回・絵本探究の内容のみ
対象とする絵本	『もりのなか』 『またもりへ』 『三びきのやぎのがらがらどん』 『かいじゅうたちのいるところ』 『わすれられないおくりもの』 『おじさんのかさ』	『またもりへ』を取りやめ、 『ちいさいおうち』に変更
授業計画	1・2 回：6 冊の絵本を読み味わい、各自が探求する絵本を1冊決めてグループを作る。 3 回:　グループで絵本への感想や発見、疑問などを話し合う。 4 回:　資料により探求を進め、発表準備を行う。 5・6 回：ポスター発表によりグループ毎に発表する。	1 回：6 冊の絵本を読み味わい、感想や発見したことをまとめる。 2 回：各自が探究する絵本を 1 冊決めてグループを作り、探究する内容を分担する。 3 回：探究結果を持ち寄って考察し、発表準備を行う。 4 回：ポスター発表によりグループ毎に発表する。
調査資料	各回の授業最後に記入するコメントペーパーの記述内容を分析する。	授業後に提出させた絵本探究レポートの記述内容を分析する。

杉本実践と本実践との主な相違点は以下の３点である。

(1) 授業回数・内容の変更

杉本実践は６回の授業にわたっている。また、各回は絵本の探求の内容と「保育内容の指導法（言葉）」に関する他の内容の両方を扱っている。

それに対して本実践は４回の授業のすべてを絵本探究の内容とした。こうすることで学生に絵本の探究に集中して取り組ませるためである。また、本実践の直前まで学生は幼稚園実習にグループ毎で出ているため、短期間で絵本探究に取り組ませなければならないことも考慮した。

(2) 対象とする絵本の変更

杉本実践では６冊の絵本を探求の対象に選んでいる。これらは杉本が絵本の探求の実践を重ねる中で「探求のしがいがある」[5] 絵本として選んだものであり、次の６冊である。

①『もりのなか』、マリー・ホール・エッツ文・絵（1944）
②『またもりへ』、マリー・ホール・エッツ文・絵（1953）
③『三びきのやぎのがらがらどん』、ノルウェーの昔話、マーシャ・ブラウン絵（1957）
④『かいじゅうたちのいるところ』、モーリス・センダック作・絵（1963）
⑤『おじさんのかさ』、佐野洋子作・絵（1974）
⑥『わすれられないおくりもの』、スーザン・バーレイ作・絵（1984）

本実践でも杉本の選書を踏襲した。ただし、『またもりへ』は『もりのなか』と同じ作者の絵本である。本実践ではできるだけ多くの絵本作者について学生に探究させたいと考え、『またもりへ』を次の絵本と差し替えた。

②’『ちいさいおうち』、バージニア・リー・バートン文・絵（1942）

この『ちいさいおうち』も他の５冊の絵本と同様に、作者や絵本の作られた背景等を調べることにより、学生の学びに対する意識に影響を与えることが期待できるものである。

(3) 授業計画の変更

杉本実践では学生たちが各自で絵本を探求する時間が比較的多く確保され、また参考資料が与えられている。授業の１・２回目に学生たちは絵本を各自でじっくり絵を見ながら時間をかけて読み、それぞれの絵本から発見したことや感想などを記入シート（A4版）に記入する。また、４回目では宿題で集めた資料および教員が提供した資料（同じ作者の他の絵本、原書、専門書など）により、さらに探求を進めている。これらの配慮から、学生はじっくり絵本を探求することができると思われる。

これに対し本実践では、短期間で実践を行わなければならなかったため、以下の工夫を施した。まず、探究する分野の設定と割当である。２回目の授業で学生たちが各自で探究する絵本を決めてグループを決めた後、効率を上げるために探究すべき項目を４つ挙げて、学生たちに分担させた。また、学生たちが参照する資料として、教室にタブレットPCを持参させ、本学の図書館WebサイトからCiNiiを利用して参考文献を検索させた。さらに、事前に本学の図書課と連携して６冊の絵本に関する参考図書を用意し、学生たちに供覧させた。これらの工夫により学生の探究を促進させ、効率を上げるようにした。

3. 4. 授業計画

本実践は幼児教育学科の「言葉指導法Ⅰ」の授業の一環として行う。全15回の授業中の第８回～第11回にあたる４回の授業を本実践に充て、以下のように展開する（資料１参照）。

１回目は学生各自による絵本の読み味わいである。全員に６冊の絵本を読ませ、それぞれの絵本について、①感想、②気づいたこと、③調べたいこと、をまとめさせる。

２回目は絵本の探究である。まず、６冊の絵本から自分が探究したいものを１冊選ばせる。次に、同

じ絵本を選んだ者同士でグループを組ませる。42～44名のクラスなので、1種類の絵本につき２グループ組むこととし、それぞれのグループは３～４名にさせる。さらに、絵本を探究する観点として以下の４項目を提示し、グループ内で分担するようにさせる。

①作者について
②絵本が作られた背景について
③絵本のストーリーの特徴・魅力について
④絵本自体の特徴・魅力（絵の描き方、本としての作り方など）について

また、参考図書を本学図書館に用意し、自由に閲覧しに行かせる。さらに学生にタブレットPCを持参させ、インターネットを活用して参考文献を検索させる。これらの際には、教員が十分に援助・助言する。時間内に終わらないものは次週までの課題とする。

３回目は絵本探究のまとめである。各自が調べてきた結果をグループ内でまとめ、模造紙２枚のポスター発表資料を作成させる。時間内に終わらないグループは次週までの課題とする。

４回目はポスター発表による発表会である。１種類の絵本あたり２グループを前半と後半に分け、それぞれの回に６種類の絵本すべての発表があるようにする。学生が用意してきたポスター資料を教室の壁に貼り出し、メンバーはその前に立って自分たちの調査結果を発表させる。発表のないグループはすべての発表を見て回り、相互評価させる。30分間発表させた後で前半と後半を交代させ、発表を続けさせる。

資料１　「絵本探究」の授業計画

言葉指導法Ⅰ　第2期「絵本探究」について　2016/11/29

皆さんはどんな絵本を知っていますか？　絵本の作者やその時代背景、絵本の「絵」について知っているでしょうか？
絵本を子どもたちに読み聞かせる際にも、絵本についてよく知っていることが必要です。絵本に魅力を味わうために、「絵本探究」に取り組みましょう！

第8回　絵本を知ろう！

1．全員が、提示する6冊の絵本（いずれも評価の定まった作品）を読む
2．それぞれの絵本について、①感想、②気づいたこと、③調べたいこと、をまとめよう

第9回　絵本を探究しよう！

1．6冊の絵本から、自分が探究したいものを1つ選ぶ
2．同じ絵本を選んだ人同士でグループを組む（1つの絵本につき2グループ）
3．グループのメンバー内で探究する内容を分担する
内容：①作者について、②絵本が作られた時代背景について、③ストーリーの魅力について、
④絵の魅力について（絵の描き方、本としての作り方など、「面白い！」と気づいたこと）
①、②に関して、参考となる資料を本学図書館に用意してあるので、参照すると良い
もちろん、自分で調べてもOK！　（人数が少ない場合、①・④は必須！）

宿題！
上記の分担部分を、第10回の授業までに調べ、メモしておく
水3：12/14まで　木4：12/15まで　金2：12/16まで

第10回　絵本の魅力をまとめよう！

1．メンバー各自が調べてきた内容を模造紙（2枚以内）にまとめる
やむを得ず欠席する者は、事前に自分で調べてきたメモをメンバーに渡しておく
2．レイアウトは自由、資料を貼ることもOK。必ずビジュアルなものにしよう
3．**時間内に終わらない場合は、宿題！**　グループで都合を合わせて、第11回までに完成させよう

第11回　絵本の魅力を人に伝えよう！

1．グループでまとめたことをポスター発表の形式で発表する
2．抽選により、グループを2つに分ける．その際、全て別の絵本を選んだグループとなるようにする
3．各グループで発表者を2名決め、発表する。他の者はグループを見て回り、評価する
4．前半と後半、それぞれ30分間で発表する
5．絵本ごとに2グループあるので、どちらがその絵本の魅力をより伝えたかを競う

第11回では「絵本探究」のレポートも課します。それが、言葉指導法Ⅰの成績評価の資料となります。

４．実践の概要

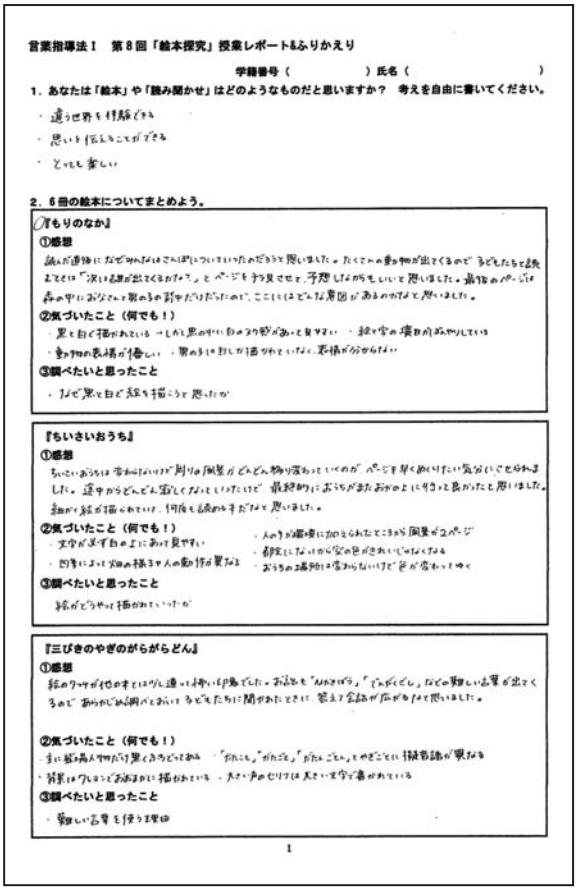
4．1．１回目　学生各自による絵本の読み味わい

授業の初めに、今後の４回の授業の概要について学生に説明した。そして、６冊の絵本を学生に示し、これらの選書の意図を説明した。なお、絵本は新潟市内の図書館に依頼して借り出したものである。その後で学生各自に絵本を読ませ、感想等を書かせた（資料２参照）。その際、絵本のストーリーだけで

なく絵そのものも充分味わい、描かれたものの意味や意図を考えるよう促した。

学生は、６冊の絵本のタイトルは知っていても実際に読んだことのない者が多く、「どれも今まで知らなかったもので面白かったです。」と、読むのが初めてである者もいた。その中で、「絵本も描く人や内容で全く違う雰囲気になるのだなと思った。」「たくさん読んだけど、それぞれの本でいろいろ特徴があって面白かったです。よく見るとたくさん発見があり、違った形が見られて良かったです。」など、絵本を比較することによる発見を得た学生も多くいた。この時間で学生は絵本をよく読み味わうことができたと考える。

資料２　6冊の絵本についてのまとめプリント（記入例）



言葉指導法Ⅰ　第８回「絵本探究」授業レポート&ふりかえり

学籍番号（　　）氏名（　　）

1．あなたは「絵本」や「読み聞かせ」はどのようなものだと思いますか？　考えを自由に書いてください。

・違う世界を体験できる
・思いを伝えることができる
・とっても楽しい

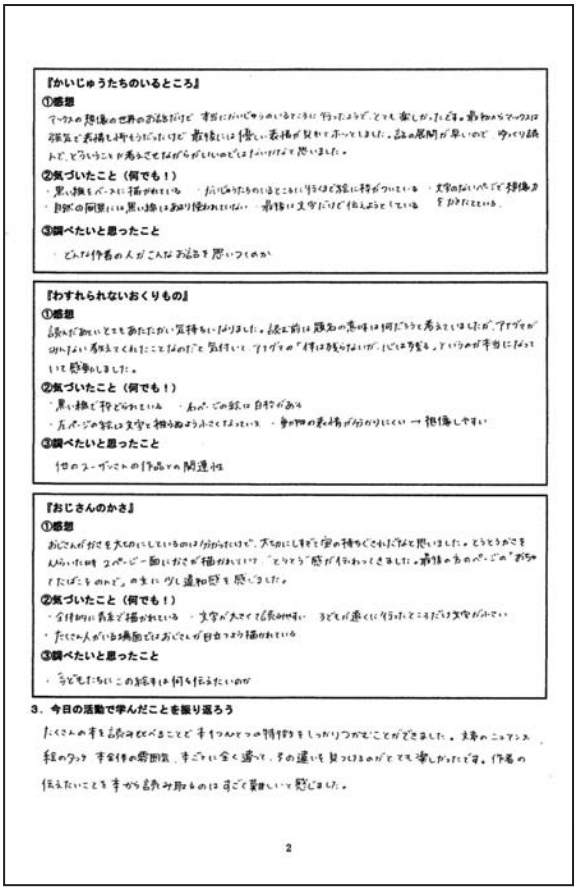
2．6冊の絵本についてまとめよう。

『もりのなか』
①感想
読みが直接になぜかたはさんぽについていたのだろうと思いました。たくさんの動物が出てくるので子どもたちと読むときは「次い名前が出てくるかな？」とページを予想させて、予想しながらもいいと思いました。最後のページは森の中におじさんと男の子の詩やだったので、ここにはどんな意図があるのかなと思いました。
②気づいたこと（何でも！）
・黒と白で描かれている →しかし黒の中に白かつ野があっと見やすい　・絵や字の雰囲気はやさしいでいる
・動物の表情が優しい　・男の子は目しか描かれていない。表情が分からない
③調べたいと思ったこと
・なぜ黒と白で絵を描こうと思ったか

『ちいさいおうち』
①感想
ちいさいおうちは変わらないが周りの風景がどんどん物り変わっていくのがページを早くめくりたい気分にさせられました。途中からどんどん寂しくなっていったけど最終的におうちがまたおかのように戻ったと良かったと思いました。絵が絵が描かれていて、何度も読みたくなったと思いました。
②気づいたこと（何でも！）
・文字が必ず白の上にあって見やすい　・人々が都市に加えられたところから風景がスピード
・四季によって畑の様子や人の動作が異なる　・都会にないから空の色がきれいじゃなくなる
・おうちの場所は変わらないけど色が変わっていく
③調べたいと思ったこと
・絵がどうやって描かれていったか

『三びきのやぎのがらがらどん』
①感想
絵のタッチが他の本とはちょっと違った味わいがあった。お話も「がらがら」「どんがどん」などの難しい言葉が出てくるので、あらかじめ調べておいて子どもたちに聞かれたときに答えて会話が広がればと思いました。
②気づいたこと（何でも！）
・主に登場人物が黒くぬりつぶされている　・「がたこと」「がたごと」「がたごとっ」とやぎごとに擬音語が異なる
・背景はクレヨンでおおまかに描かれている　・大きい声のセリフは大きい文字で書かれている
③調べたいと思ったこと
・難しい言葉を使う理由

1



『かいじゅうたちのいるところ』
①感想
マックスの想像の世界のお話だけど本当にかいじゅうのいるところに行ったようで、とても楽しかったです。最初からマックスは部屋で表情しかやらないけど最後には優しい表情が見れて不ッとしました。話の展開が早いので、ゆっくり読んで、どういうことが考えさせながらがいいのではないかなと思いました。
②気づいたこと（何でも！）
・黒い線もページに描かれている　・かいじゅうたちのいるところにいる時ほど絵に特がついている　・文字のないページで想像力をかきたてている
・自然の風景には黒い線はあまり使われていない　・最後は文字だけで伝えようとしている
③調べたいと思ったこと
・どんな作者の人がこんなお話を思いつくのか

『わすれられないおくりもの』
①感想
読みがあいてとても考えさせられる気持ちになりました。読む前は題名の意味は何だろうと考えていましたが、アナグマが死んだから考えてくれたことなのだと気付いて、アナグマの「体は残らないが、心は残る。」というのが本当になっていて感動しました。
②気づいたこと（何でも！）
・黒い線で仕切られている　・あんページの絵は自然があり
・反ページの絵は文字を物語ようふさぐようにしている　・動物の表情が分かりにくい → 想像しやすい
③調べたいと思ったこと
・他のユーザンさんの作品との関連性

『おじさんのかさ』
①感想
おじさんがかさを大切にしているのは分かっていて、大切にしすぎて傘の持ちぐされになったなと思いました。とうとうかさを人からいただいて、2ページ一面にかさが描かれていて、「とうとう」感が伝わってきました。最後のあのページの「おちゃたべたいなのね。」の文にちょっと違和感を感じました。
②気づいたこと（何でも！）
・全体的に青系で描かれている　・文字が大きくて読みやすい　・子どもが楽しく作ったところだけ文字がふとい
・たくさん人がいる場面ではおじさんが目立つように描かれている
③調べたいと思ったこと
・子どもたちにこの絵本は何を伝えたいのか

3．今日の活動で学んだことを振り返ろう

たくさんの本を読みくらべることで本ごとの特徴をしっかりつかむことができました。文章のニュアンス、絵のタッチ、本全体の雰囲気、まごころ全く違って、その違いを見つけるのがとても楽しかったです。作者の伝えたいことも本から読み取るのはすごく難しいと感じました。

2

4．2．２回目　絵本の探究

前時で６冊の絵本を読んだことを元に、学生にさらに探究したい絵本１冊を選ばせ、同じ絵本を選んだ者同士でグループを作らせた。１グループを３～４名とし、同じ種類の絵本を２グループが探究することにさせた。そして、探究するための４つの観点（①作者、②作品が作られた背景、③ストーリーの魅力、④絵本としての魅力）を示し、メンバー内で分担させた。

次にそれぞれが分担した観点に沿って探究を始めさせた。学生にタブレットPCを使って本学図書館のWebサイトからCiNiiにアクセスさせ、参考文献を検索させ閲覧させた。また、本学図書館に用意した参考図書を供覧させた。

学生は、「今までこんなに深く絵本について調べたことはありませんでした。調べてみると、新しい

視点での見方が見つかったり、読み聞かせのその先にも考えられることがたくさんあって面白かったです。」「１つの絵本でもたくさんの視点から見て読んでみると感じることが全く違うということを学びました。私は最近になって、本でもテレビでも1回見たり読んだりしたものをもう１回…とはあまりならないのですが、『わすれられないおくりもの』は読むごとに気づくことが増えたり、新しい発見があったりしたので何回も読むべき絵本だと思いました。」などと感想を述べており、それぞれの担当する観点からの探究を通して、絵本から多くのことを気づくことができたようであった。

4. 3. ３回目　絵本探究のまとめ

学生各自が探究してきた結果をグループごとにまとめさせ、ポスター発表に向けての資料を作成させた（写真１・２参照）。模造紙を横置きにしたものを２枚、縦に貼り合わせて大きな用紙を作り、そこに各自の探究結果をまとめさせた。

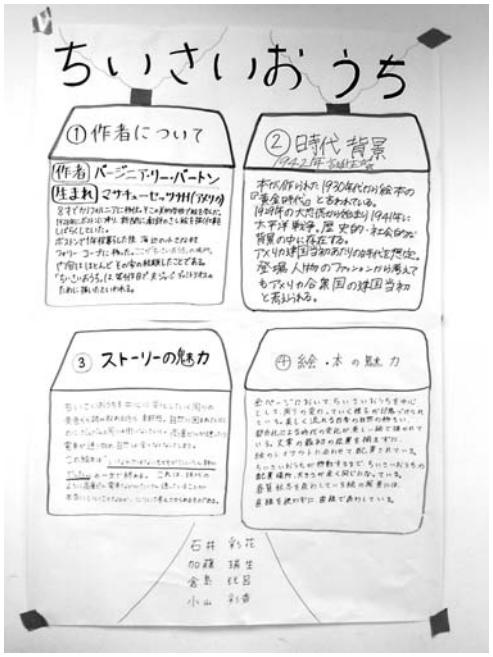


写真1　ポスター作例①

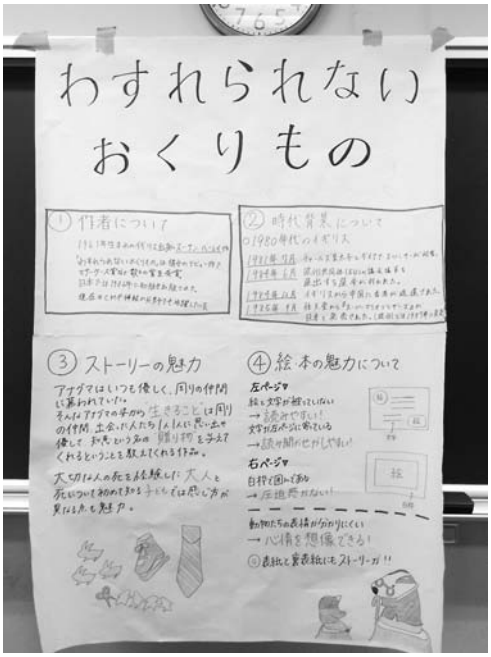


写真2　ポスター作例②

その際、Webサイト「伝わるデザイン　研究発表のユニバーサルデザイン」[6)] の内容を参考にさせ、ビジュアルで分かりやすいレイアウトにするよう心がけさせた。

学生は、「レイアウトの仕方などがよく分かりました。（中略）今まで調べたことをレイアウトにまとめてみると、バラバラに入っていた作品の背景や知識が頭の中でまとまってよかったです。」「グループでどうやったら見やすく書けるか話し合いながら作成できました。書き始めたら書きたいことが多く出てきましたが、ポスターに書く部分と口頭で伝える部分を分けることで解決しました。」などと感想を述べており、このまとめ作業においても多くの気づきや学びが進んでいることが見てとれた。

4. 4. ４回目　ポスター発表による発表会

グループで作成したポスターを使って発表会を行った。グループを前半・後半に分け、それぞれのポスターを教室の壁に貼り出して発表会を行った（写真２・３参照）。発表するグループ以外の学生は個々のポスター発表を聞いて相互評価し、すべての発表を回るようにさせた（資料３参照）。30分間程度を

発表時間として発表グループを交替させた。

写真３　ポスター発表の様子①

写真４　ポスター発表の様子②

資料3　各グループの発表の相互評価用紙（記入例）

言葉指導法Ⅰ　第11回　絵本探究④_評価用紙　　番号（　　）氏名（　　）

◎前半　1 悪 ⟷ 良 5

5段階評価	もりのなか	ちいさいおうち	三びきのやぎのがらがらどん	かいじゅうたちのいるところ	わすれられないおくりもの	おじさんのかさ
調査が適切か	5			4	5	
説明がわかりやすいか	4			2	3	
ポスターがわかりやすいか	3			5	5	
絵本の良さが伝わったか	4			3	3	
合計	16			14	16	
感想	①作者についての説明はあるが作者の紹介はない。しかし、説明がわかりやすい。②ポスターの作品、ていねいでとてもよかった。			声が小さくてよく聞こえなかった。ポスターは絵がようでさらに好きになりそうだよ。	調べてきたことがわかりやすく、ポスターに書かれていた。ポスターに書かれてないことも説明してくれてよかった。	

◎後半

5段階評価	もりのなか	ちいさいおうち	三びきのやぎのがらがらどん	かいじゅうたちのいるところ	わすれられないおくりもの	おじさんのかさ
調査が適切か	5	3	5	4	4	5
説明がわかりやすいか	3	3	4	4	5	4
ポスターがわかりやすいか	4	4	3	5	4	3
絵本の良さが伝わったか	4	3	5	4	5	4
合計	16	13	17	17	18	16
感想	絵がかわいい。作者の部分が作品と関係づけて説明していた。②ほとんどよかった。説明がていねいで聞いていた。	声が小さい。ポスターに書かれていることを読んでいるだけ。説明がとぼしかった。	ユーモアがある。強調したりして聞きやすい。シャーペンで書いていてかわいい。見ると楽しくなる説明だった。	読み聞かせしてくれるような所とついてくる説明だった。ちょっとわるい文がなかった。	ポスターは必要最低限のものだけ書いて、他は説明されている。自分たちの考えが書かれた。	①が特に分かりやすかった。ポスターが色がうすかったり文字が小さくて、ていねいに説明されていたのが良い。

5．結果と考察

４回の授業が終わった後、学生にこの「絵本探究」授業において調査した結果及び授業の感想について自由記述でレポートをさせた。その授業に対する感想を調査対象としてテキストマイニングを試み、「絵本探究」の授業に対する学生の意識について考察する。有効回答数は126名であった。分析は樋口耕一が公開しているKH Coder[7]を使用した。表２は、KH Coderによって出力された、学生の授業に対する感想の頻出語150である。

表２　学生の授業に対する感想の頻出語150

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
絵本	582	機会	43	活動	22	時間	15	隠す	10	挿絵	7
読む	310	今	41	多い	22	少し	15	気付く	10	得る	7
調べる	266	時代	41	描く	22	多く	15	変わる	10	文章	7
思う	238	発見	41	大切	21	伝わる	15	メッセージ	9	練習	7
知る	139	グループ	40	普段	21	部分	15	意図	9	１つ	6
本	125	人	39	一つ	20	ほか	14	感じ	9	奥深い	6
自分	95	選ぶ	37	気	20	込める	14	気持ち	9	詰まる	6
作者	93	内容	37	細かい	20	小さい	14	言葉	9	驚く	6
感じる	92	ストーリー	35	探究	20	年齢	14	考え	9	最後	6
子ども	90	違う	33	保育	20	本当に	14	作る	9	冊	6
授業	89	疑問	33	気づく	19	ポスター	13	受ける	9	仕方	6
たくさん	79	良い	32	経験	19	最初	13	終わる	9	色々	6
絵	72	他	29	改めて	18	触れる	12	出る	9	踏まえる	6
発表	70	初めて	28	大人	18	先生	12	新た	9	特に	6
今回	66	分かる	28	それぞれ	17	知識	12	増える	9	筆者	6
聞く	64	思い	27	書く	17	物語	12	探す	9	文字	6
魅力	63	楽しむ	26	難しい	17	もう一度	11	使う	8	幼児	6
探求	59	詳しい	25	勉強	17	楽しめる	11	読み返す	8	イラスト	5
見る	58	学ぶ	24	意味	16	研究	11	アナグマ	7	意見	5
楽しい	57	実習	24	前	16	子供	11	感動	7	一緒	5
深い	53	出来る	24	興味	15	実際	11	見方	7	学べる	5
面白い	51	好き	23	工夫	15	新しい	11	行う	7	強い	5
考える	50	聞かす	23	今後	15	想像	11	合う	7	繋がる	5
伝える	50	様々	23	視点	15	班	11	作品	7	見つける	5
背景	45	理解	23	持つ	15	いろいろ	10	世界	7	言う	5

この頻出語のうち40回以上出現する語について、KH Coderの「共起ネットワーク」を用いて考察する。

5. 1. 共起ネットワークの結果

KH Coderにより、「絵本探究」の授業に対する学生の感想の共起ネットワークを描画させた（図１参照）。共起ネットワークとは、出現パターンが似通った抽出語同士を自動的に抽出し、一段落の中でよく一緒に使われている（共起の程度が強かった）語を線で結んでいる。出現数の多い語ほど大きな円で示しており、一段落の中でより多く一緒に使われていた語であるほど太い線で描画している。なお、図における語の位置にはあまり意味はなく、線で結ばれているかどうかが重要である。また、円同士を結んだ線上の数値はKH Coderによって計算されたJaccard係数であり、数値が大きいほど共起の程度が強いことを示す。

共起ネットワークを描画させた結果、以下の３点がわかった。

１つ目は、「絵本－読む・思う・調べる」の強い関連が示され、次に「知る・自分・授業・たくさん」との関連が示された。

２つ目は、「読む－本・子ども・感じる・今回・楽しい・聞

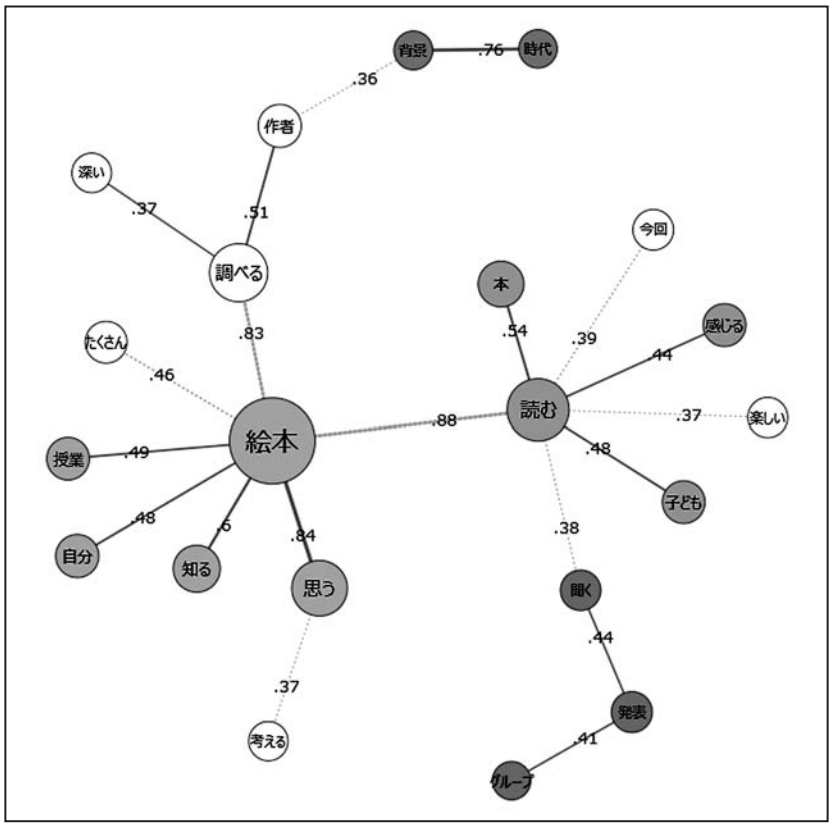


図1　「絵本探究」の授業に対する学生の感想抽出語の共起ネットワーク

く」との関連が示された。また、「聞く」に関しては「発表・グループ」との関連が示された。

３つ目は、「調べる－作者・深い」との関連が示された。また、「作者」に関しては「背景・時代」との関連が示された。

5. 2. 考 察

(1)「絵本」との関連より

抽出語「絵本」について、「読む･思う･調べる」との強い関連が示された。学生はこの「絵本探究」の授業を通して、絵本をよく読み、様々なことを思う経験をし、また多くのことを調べたことが読み取れる。

「絵本－読む」が一緒に使われた感想例として、「調べたことを踏まえて読む絵本は何倍も楽しめると思った。」「これからもたくさんの絵本に触れていくと思いますが、一つ一つの絵本を大切に読んでいきたいと思いました。」「普段細かいところまで気にして絵本を読むことはなかったので自分が気になることを見つけ出して解決できてよかったです。」などが挙げられる。学生は、この授業を通して絵本の様々な読み方に触れることができ、絵本の楽しさや大切さを実感していることが読み取れる。

また､「絵本－思う」が一緒に使われた感想例として､「この『もりのなか』という絵本で私がまず思ったことは、絵が白黒であるということだった。」「幼児には少し難しいかもしれませんがとても考えさせられる絵本だなと思いました。絵本を探究することでわかることがたくさんあるし、子どもの想像力が豊かになると思いました。」「知らなかったものはもちろん、知っていたものも改めて感じるものがあったりして、絵本っていいなと思いました。」などが挙げられる。学生は、絵本の特徴や、絵本を子どもに読み聞かせた際の反応への想像や、絵本への評価の改めなど、多くのことを思わせられたことが読み取れる。

また、「絵本－調べる」が一緒に使われた感想例として、「絵本について調べたことがなかったので勉強になりました。」「この授業を受ける前は、絵本について調べる機会は全くなかったし、調べようと思ったこともなかった」「授業では調べなかった絵本についても、今度自分で調べてみたいと思いました。」などが挙げられる。学生は、絵本について調べることの経験の少なさを自覚し、今後はさらに絵本について調べていこうとする意欲を見せていることが読み取れる。

さらに、「絵本」と「知る・自分・授業・たくさん」についても、上記とほぼ同様の学生の意識を読み取ることができる。

(2)「読む」との関連より

抽出語「読む」について「本・子ども・感じる・今回・楽しい・聞く」との関連が示された。また、「聞く－発表・グループ」との関連が示された。

このうち、「読む－子ども」が一緒に使われた感想例として、「これから現場に出ると、子どもたちに絵本を読み聞かせる機会が増えていきます。」「私はまだ自分が昔に読んでもらった絵本しか知らず、一握りしかありません。だからこれから子どもたちの前で読み聞かせをする私たちにとって、この授業は自分のためになると思いました。」「将来、保育士として子どもたちに絵本を読む機会がたくさんあると思うので、読む本について調べることは大切だと感じました。」などが挙げられる。学生は自分が子どもたちの前で絵本の読み聞かせをする場面を想像し、その際にしっかりと読み聞かせをするためにも絵本の知識を持つことの重要性を認識できていることが読み取れる。

また、「読む－感じる」が一緒に使われた感想例として、「普通に絵本を読むのと探究してから読む

のでは感じ方も変わりました。」「絵本探究をする前とした後では読んでみて感じ方が大きく変わったなという感じがしました。」などが挙げられる。絵本探究の授業を通して、学生が絵本の新たな魅力に気づいている様子が読み取れる。

さらに、「読む－楽しい」が一緒に使われた感想例として、「作者のことや、その絵本が描かれた時代の背景などを調べてからその絵本を読むと、見方が変わったり、分からなかったことが分かったり、新たにその絵本の魅力に気づけたりと、とても楽しく読むことができる」「物語や挿絵に隠された意図や、物語の裏で起こっていることなど、さらっと読んだだけでは分からない部分にこそ、面白さが詰まっている感じがして、想像したり、調べてみたりするのが楽しく、繰り返し読みたくなりました。」などが挙げられる。絵本探究の授業を通して絵本の様々な面に注意しながら読むことによって、絵本の魅力が増している様子がうかがえる。

(3)「調べる」との関連より

抽出語「調べる」について「作者・深い」の関連が示され、また「作者－背景・時代」の関連が示された。このことから、学生が探究したものとして「作者」があり、その作者について「作品の成立した背景」や「時代の背景」などを様々に調べる経験を持ったことが読み取れる。

また、「調べる－深い」が一緒に使われた感想例として、「全然関心のなかったその本の歴史や本の深い内容まで調べれば調べるほど楽しくなったり、なるほど！　など初めて知れたこともたくさんありました。」「いつもはただ読むだけなので一つの絵本について詳しく調べることは内容について深く考えられるいい機会だったと思います。「初めてここまで深く調べました。調べてみると、作者が絵本を作った経緯や細かい描写がわかってよりその絵本を理解することができました。」「普段絵本を深く調べることは無いので作者や絵本のことを調べることができて面白かったです。」「この学校に入学して絵本を読む機会が増えましたが、読むだけで深くその絵本について調べることがなかったのでとても面白かったです。」などが挙げられる。この２つの抽出語からは、学生が絵本を探究することによって絵本への関心が深められるとともに、この「絵本探究」の授業そのものの面白さも味わっていることが読み取れる。

６．結論と今後の課題

本研究では、「絵本探究」の授業実践を通して、学生の絵本の学びに対する意識を分析した。その結果、以下のことが読み取れた。

１）「絵本」と関連する語の傾向から、学生は絵本の様々な読み方に触れることで絵本の面白さや価値に気づき、読むことを通して様々なことを思い、絵本について調べることでさらに絵本を探究する意欲を持ったことが読み取れた。

２）「読む」と関連する語の傾向から、学生は自分が子どもに絵本を読み聞かせる場面を想定することで絵本の知識を持つことの重要性を確認し、また、読んだことのない絵本を読んだことで新たな魅力に気付いていることが読み取れた。

３）「調べる」と関連する語の傾向から、学生は絵本を探究することによってさらに絵本への関心を深め、また絵本探究の授業の面白さも味わっていることが読み取れた。

４）これらのことから「絵本探究」の授業の可能性を確認できたとともに、改善の視点として学生が絵本により浸ることのできる授業時間や、調査したことをまとめて発表する時間・機会をより確

保することが必要だと考えられる。

今後の課題として、次のことを挙げる。

1）本研究では、学生の意識を読み取るために授業実施後のレポートのみを調査対象としたため、授業前の学生の意識が授業を経験することでどう変化したかを読み取ることができなかった。

2）学生の意識を分析する手法としてテキストマイニングを用いて、学生の授業感想における自由記述の内容について傾向をつかむことを試みたが、その分析手法をさらに精緻化する必要がある。

3）テキストマイニングだけでなく、アンケート結果の数値集計による分析法を併用することで、学生の意識の様態を多面的に分析する必要がある。

以上の課題を踏まえつつ、次年度の授業展開に活かしていきたい。

なお、筆者は全国保育士養成協議会第55回研究大会での杉本の研究発表を聴き、その場で杉本より多くのご教示をいただいた。ここに記して謝意を申し上げる。

注・参考文献

1）杉本真理子「保育学生の「絵本」に関する学びの深化 「保育内容の指導法（言葉）」における実践」全国保育士養成協議会第55回研究大会における配付資料、2016

2）杉本真理子、上記研究大会研究発表論文集、2016、297ページ

3）1）に同じ

4）吉田新一郎「効果10倍の〈教える〉技術　授業から企業研修まで」PHP新書、2006、33－34ページ

5）1）に同じ

6）「伝わるデザイン　研究発表のユニバーサルデザイン」
http://tsutawarudesign.web.fc2.com（2017.02.28閲覧）

7）樋口浩一、KH Coder Ver.2.00f　及び　Ver.3.Alpha.8
なお、KH Coderの使用方法として以下の書籍を参考にした。
樋口浩一「社会調査のための計量テキスト分析　内容分析の継承と発展を目指して」ナカニシヤ出版、2014